



日本国における経済施策への提言

Office
of
黒田イナショナル コンサルティング
Takeshi
Kuroda
黒田 毅

新規円相場が 1 ドル 200 円を越えることが予測される今、新しい経済施策は、唯一未来を有する選択である。これらは、既存経済基盤を新規技術基準において飛躍させることは、政治のプレゼンスを求め、新たな経済施策や経済安全保障における未来の実現を提案できるものである。

アベノミクスが、国内資産の海外への流出を与えたことは周知であり、来るべき株式市場の混乱は、海外からの国内産業の買い占めを予測させるものである。

アメリカ経済の回復と今日の隆盛は、全てレーガノミクスにおける構造転換であり、これらは自由経済主義における経済の創造が今日のアメリカを有するのである。他方において今日自由貿易システムは、これらの自由経済主義における明確な自己正義の実現でもあるのである。

日本国における今日の現実、明らかにアメリカのレーガノミクス以前の双子の赤字と財政の不健全性を類似するものである。今日の円相場の下落は、アメリカが断固として自己経済施策を行い、今日を有することと、無策における円相場の下落という現実の完全な相違性である。

他方においては格差社会の創造が与えられたものである。日本国の国家財政は明らかに破綻を有していることは真実であり、他方においては資産と産業を有する。これらは経済施策における構造転換を実現することは可能であることを理解するべきであり、失われた 30 年という現実、明らかに大幅な社会と構造転換を国内に与えたものである。アメリカにおいては小さな政府と自由主義と自由経済システムにおける新しい現実の創造が真実となりつつある。レーガノミクスにおけるマネーサプライの減少は、アベノミクスにおけるマネーサプライの増加と相違し、そのマネーサプライの増加が、今日の円相場の崩壊を与えているのである。

日本銀行におけるマネーサプライの増加は、国外への資金の流出を与えるものであり、現状の円安はその結果である。レーガノミクスは、レーガン元大統領が、国内産業の所有の回復をマネーサプライの減少とともに模索したことと、現在の日本国の現状は明らかに同じなのである。